



Windows10

レスキューキット

マニュアル

manual version 2.1.00000

Free 版 / Premium 版 / Pro 版
共用

エディション	10の基本強化	•外付けディスクの保護 •コールドブート機能 •F8レガシーブート	•Win7 互換ウォッチドッグタイマー機能 •OS更新タイマー※1
Free 版	○	×	×
Premium 版	○	○	×
Pro 版	○	○	○

※1:OS更新タイマーはFree版,Premium版は一ヶ月の間試用できます。

目次

1.インストール.....	3
2.操作方法・簡単な使い方.....	4
2.1.Windows10 レスキューキットの起動.....	4
2.2. 簡単な使い方・命綱.....	7
2.3. Windows Update タイマー.....	9
3.リファレンス.....	10
3.1. 起動設定.....	10
3.1.1. セーフモード.....	11
3.1.2. コールドブート.....	11
3.2.XP/7 互換の便利機能.....	12
3.2.1.フォルダオプション.....	13
3.2.2.UAC(権限管理)の設定.....	14
3.3.安定化.....	14
3.4.互換性テスト.....	15
3.5. プライバシー、セキュリティアシスト機能.....	16
FAQ.....	18

1.インストール

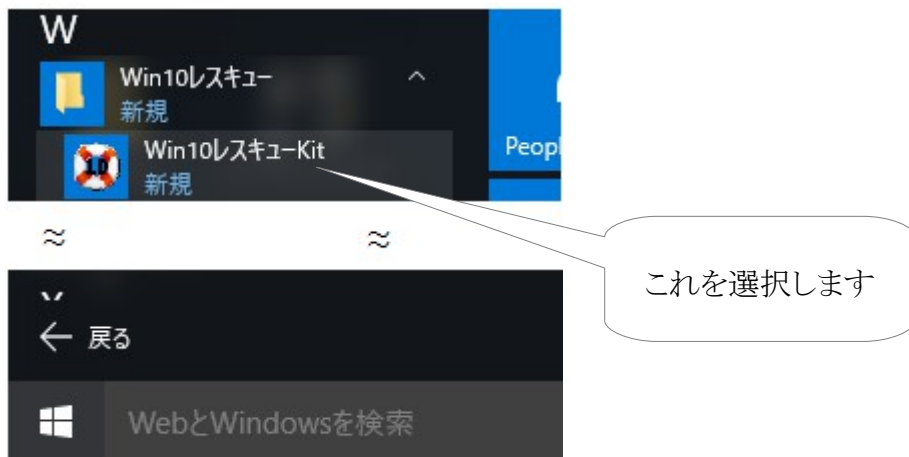


インストールにあたり、ウイルス対策ソフトの遮断を切ってください。
ウイルス対策ソフトの遮断により発生する各種問題のテクニカルサポートはウイルス対策ソフトの販売会社に依頼してください。

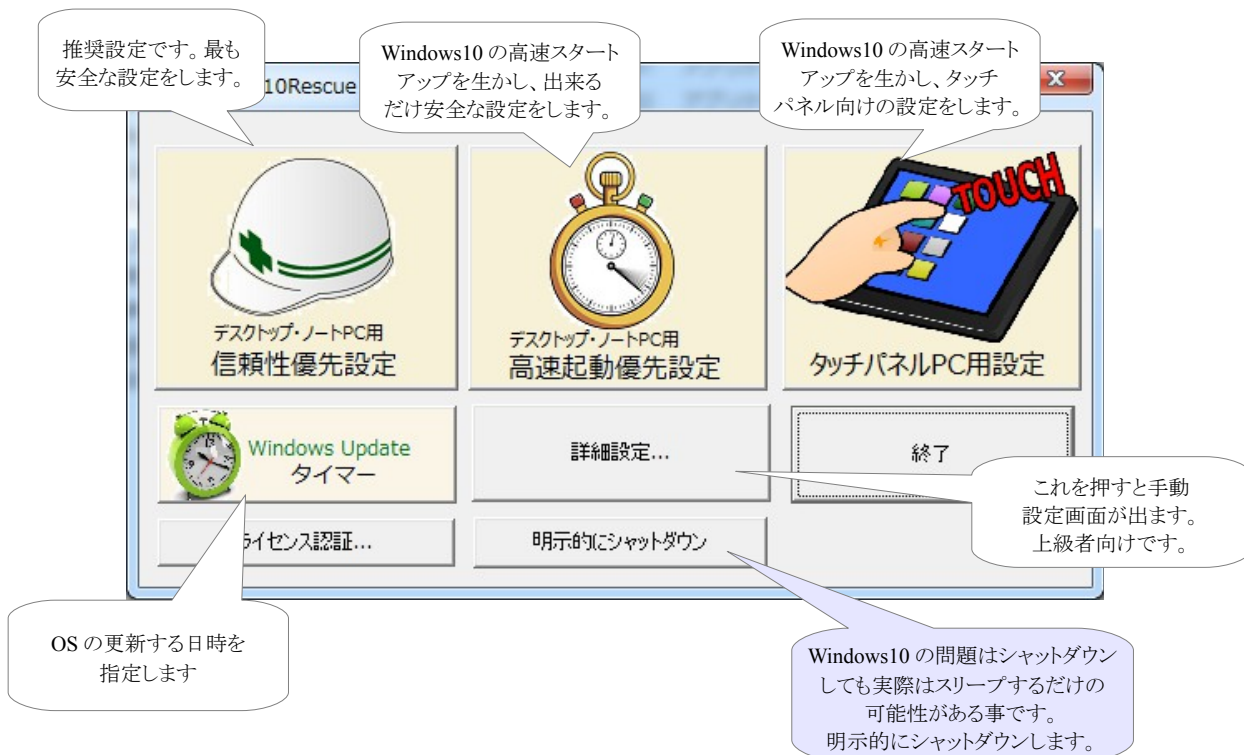
※アンインストールは **Windows** 標準の「プログラムと機能」にて行います。

2.操作方法・簡単な使い方

2.1.Windows10 レスキューキットの起動



次の画面が出ます。通常は上段の3つのボタンのどれかを押してください。用途に応じて自動的に設定します。各項目を手動で設定したい時は【詳細設定...】を押してください。詳細画面が出ます。





ここでPCを再起動してください。

Windows8 からPCの終了がスリープに近い動きをするようになりました。

起動を高速化するため、電源を一から入れなおすのではなく、スリープ状態にしておき、パワーONから復帰する手順に替わりました。



10の高速スタートアップは高速が売りだが、その性質上、どうしても不安定になります。



デスクトップ・ノートPC用
信頼性優先設定

[信頼性優先設定]は、これを従来の Windows7 と同じように完全に電源を落とすようにします。

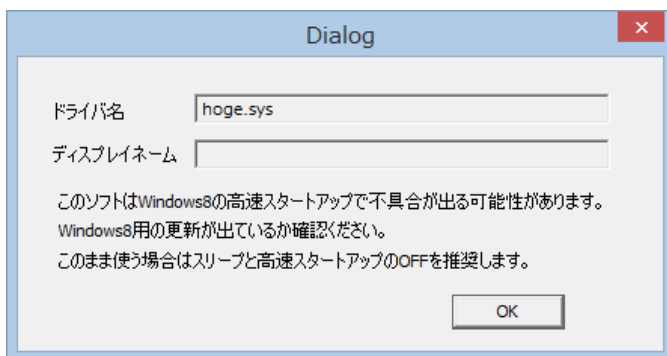
高速スタートアップをする時には、



高速スタートアップを使用するときには、事前に問題となりそうなドライバ(OSに組み込まれる特殊なソフトウェア)を調べ検索します。



もし、問題が起きるかもしれないドライバを見つけるとこのようなメッセージを出します。



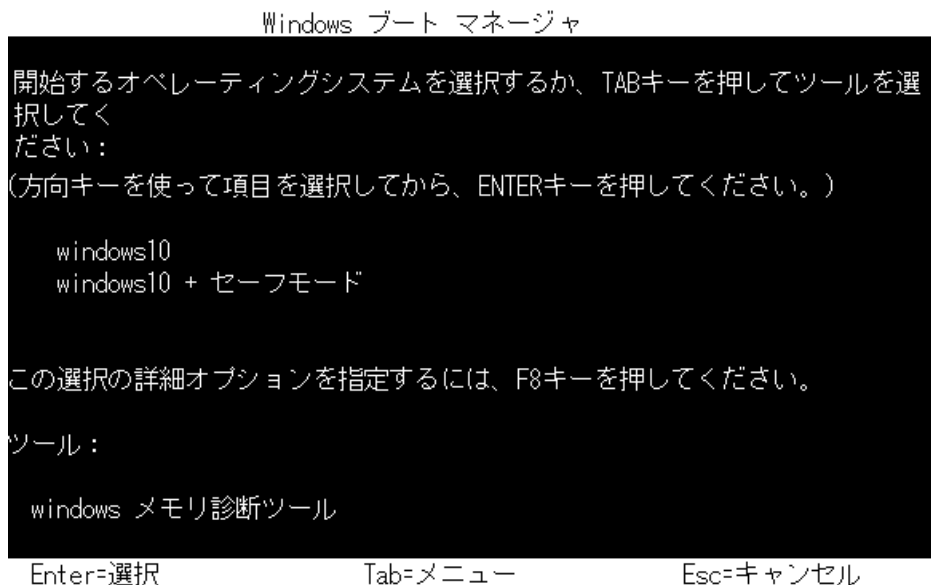
凡例として出している hoge.sys は、C:¥Windows¥System32¥drivers フォルダに所在します。
ファイル名より問題となるソフトを調べ、Windows8 に対応した版をインストールしなおすと良いでしょう。
あるいは無難に高速スタートアップの不使用を薦めます。

2.2. 簡単な使い方・命綱

■F8レガシー形式

F8レガシー形式を指定するとXP・Windows7同様の画面が出ます。

XP・Windows7同様の堅牢性を提供します。



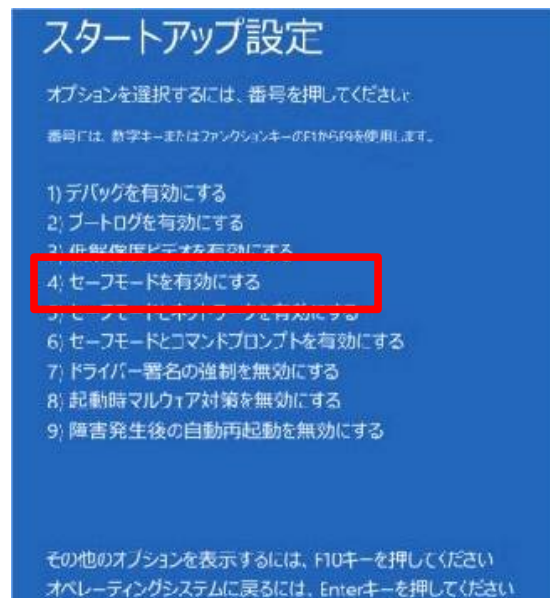
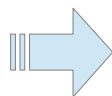
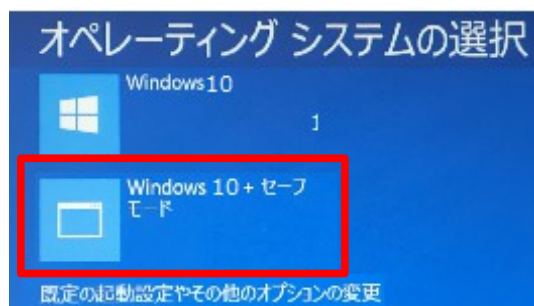
■モダン形式

Windows10レスキューキットをインストールするとWindows起動時、次のような画面が出ます。

F8レガシー形式ほど強固ではありませんが、次善の強度を提供します。

何かあったとき、[Windows10+セーフモード]を選択してください。速やかにメンテナンスできます。

①セーフモード



セーフモードを作ると次回PCの起動時より、このような選択画面が出ます。

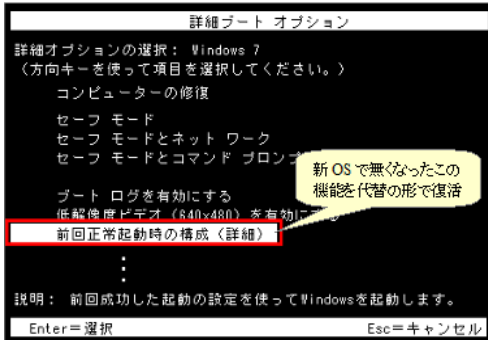
ここでセーフモードを選ぶと、XP・Windows7におけるF8ボタンを押下したに相当する画面が出ます。

ここで希望するメニューを選択ください。

セーフモードで起動する場合はここでF4キーあるいは数字の4を押してください。

セーフモードで起動します。

■「前回正常起動時の構成」の復活



従来あったこの機能が Windows8 から消失しました。

この機能をコンソール画面形式ですが復活させます。

障害が起きて PC が起動しなくなった時、1分で前回の起動時に復元します。

64ビットOSの時は“C:\%regrcv64”と入力ください。

```
X:\%Windows%\System32> C:\%regrcv64 Enter
```

32ビットOSの時は“C:\%regrcv”と入力ください。

```
X:\%Windows%\System32> C:\%regrcv Enter
```

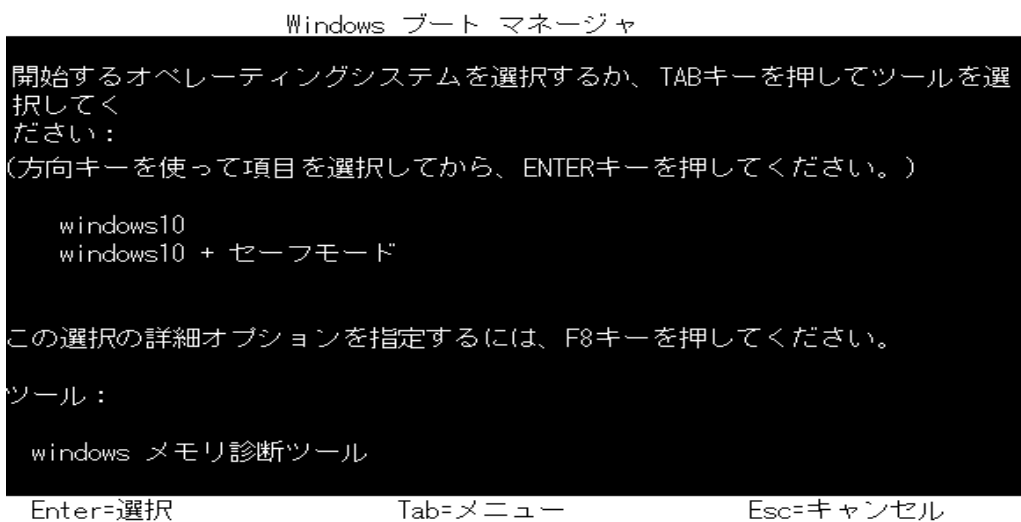
PC が起動しなくなった時、回復画面からコンソール画面を呼び出し、左図のように操作してください。

前回起動時の構成に PC を復元します。

XP, Windows7 並みの堅牢な耐障害性を実現します。

※Windows8, 10 ではシステムディスクは通常は Cドライブ固定です。複数の OS を入れると Cドライブ以外になる可能性があります。この時、本機能は使えません。ご注意ください。

F8レガシー形式からの操作方法をここで説明します。



この画面から次の手順で表示できます。

F8 → コンピュータの修復 → トラブルシューティング → 詳細オプション → コマンドプロンプト → ログオン → コンソール画面

モダン形式の場合

OS が起動しなくなると 回復環境が起動します。ここから操作できます。

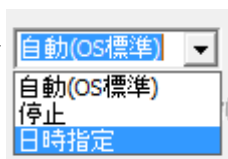
自動修復 → 詳細オプション → コマンドプロンプト → ログオン → コンソール画面

2.3. Windows Update タイマー



この画面で OS の自動更新にタイマーを掛けできます。

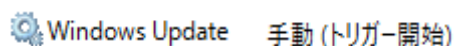
初期値です



[自動(OS 標準)]が Windows10 の初期値です。

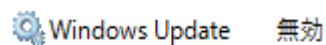
この時の問題は OS の更新が何時始まるかわからない事です。

■ 自動(OS 標準)



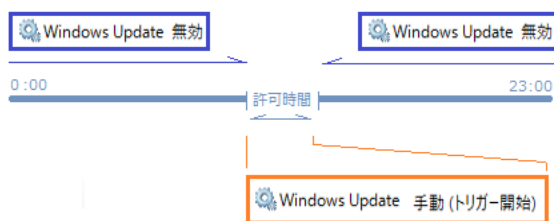
何もしません。更新を管理する「Windows Update」プログラムの規定値は「手動(トリガー開始)」です。この値は OS からの要請を待ち受ける状態です。

■ 停止



更新を管理する「Windows Update」プログラムを無効にします。

■ 日時指定

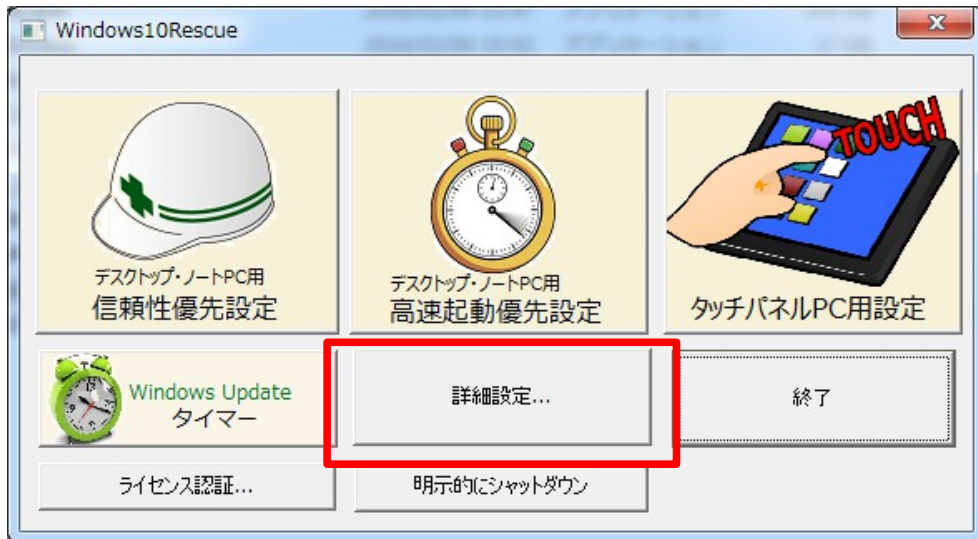


「Windows Update」の状態を時間帯により変更します。

強制実行(通常はOFF)

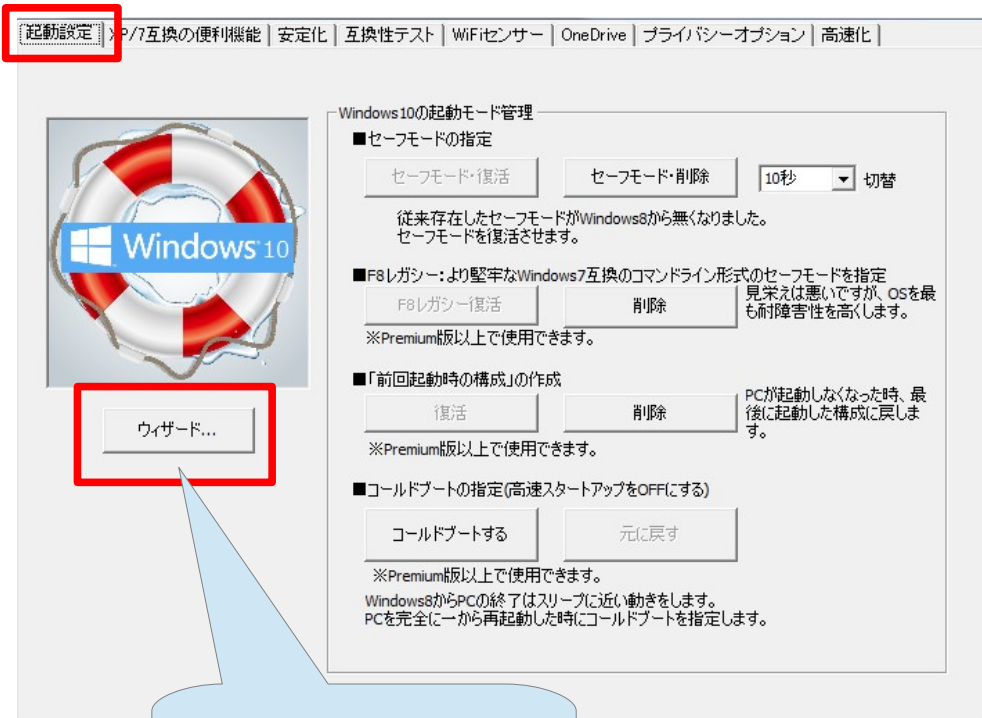
ON にすると時間が来ると、許可時間に「Windows Update」の値を「手動(トリガー開始)」にすると同時に強制的に実行します。

3.リファレンス



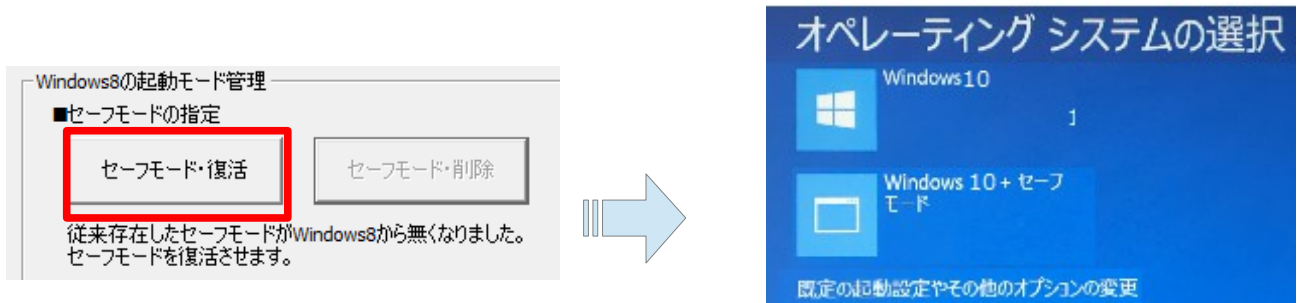
ここでは詳細設定の使い方を紹介します。

3.1. 起動設定



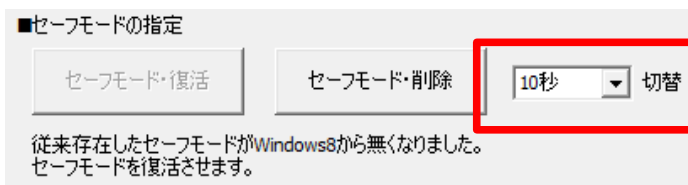
通常はこのボタンを押してください。対話形式で設定します。

3.1.1. セーフモード



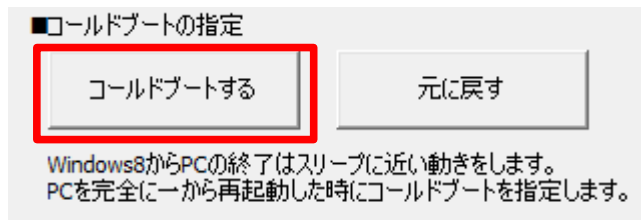
この設定をすると以後、PCの起動時に選択画面が出ます。セーフモードで起動したい時は「Windows 8.1 + セーフモード」を選んでください。メンテナンスに便利になります。

元に戻す時は【セーフモード削除】を押してください。



選択画面の待ち時間をここで指定できます

3.1.2. コールドブート



以後、PCは一から起動するようになります。

Windows8 からPCの起動がスリープに近い動作をします。これは Windows10 でも同じです。

起動を高速化するため、電源を一から入れなおすのではなく、スリープ状態にしておき、パワーONから復帰する手順に替わりました。



10の高速スタートアップは高速が売りだが、その性質上、どうしても不安定になります。

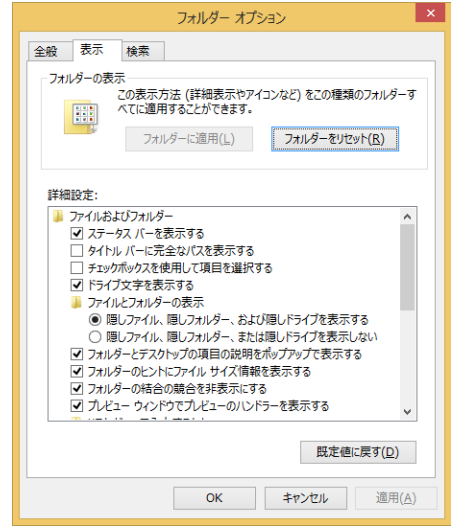
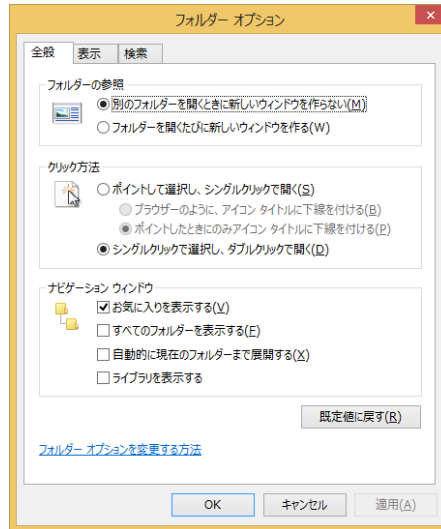
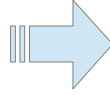
3.2.XP/7 互換の便利機能



3.2.1.フォルダオプション

ファイル名の表示ルール、フォルダの表示ルールをここで変更できます。

フォルダオプションの起動

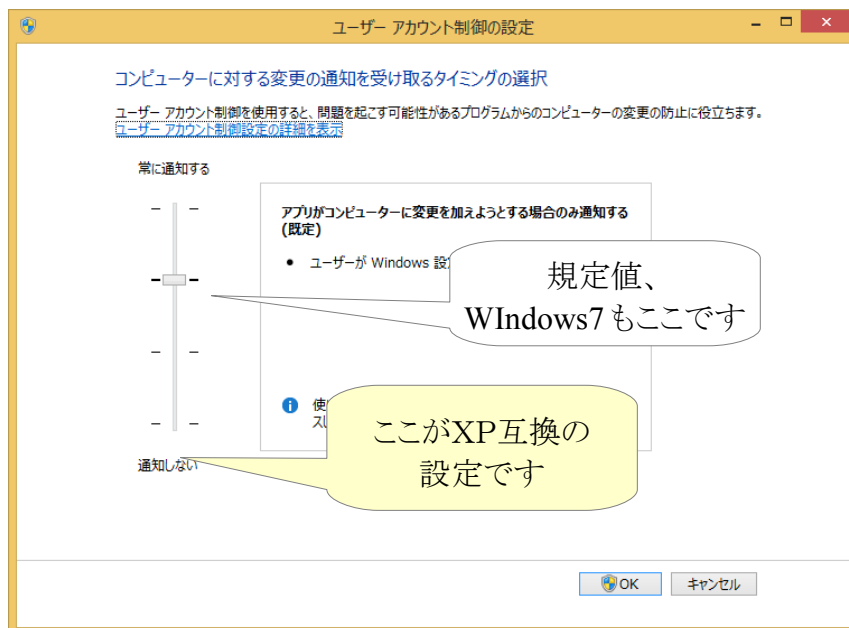
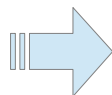


3.2.2.UAC(権限管理)の設定

XPから移行してきた時に一番使いにくい原因がこの設定です。
権限管理で不具合を感じる時はXP互換の設定をしてください。

VISAT以降に対応していないソフトを使用する時、有効です。

UAC設定...



3.3.安定化

Windows8を安定化させる各種設定を集めています。

3.4.互換性テスト

Windows10 を安定化させる各種設定を集めています。

The screenshot shows the 'Windows10レスキューKit' application window. The '互換性テスト' (Compatibility Test) tab is selected and highlighted with a red box. The interface includes a cartoon dog character, a '検査' (Check) button, and a list of error messages. A yellow callout box explains that the 'プロ版' (Pro edition) can disable timer monitoring for error 0x133. Another callout explains that Windows restarts on error, making troubleshooting difficult. A third callout points to the 'BAD_POOL_HEADER (0x19)' error, suggesting a search for incompatible drivers. The bottom of the window shows the copyright notice '(C) 2013 電機本舗'.

Windows10レスキューKit

起動設定 | XP/7互換の便利機能 | 安定化 | **互換性テスト** | 高速化

互換性テスト

検査

Windows 10 上にてスリープで不具合の出る可能性のあるソフトを探します。
次のブルースクリーンエラーが出る可能性があります。
BAD_POOL_HEADER(19)
SYSTEM_THREAD_EXCEPTI

【プロ版で使用可能】
ブルースクリーンエラー 0x133
の原因となるタイマー監視を
OFFにできます

Windows はブルースクリーン
エラーが出ると再起動します。
この結果、エラー情報がすぐ
に消え、原因追求ができない
問題があります。これを解決し
ます。

ブルースクリーンエラー-DPC_WATCHDOG_VIOLATION(133)問題を解決

タイマー監視10秒(初期値) 適用

タイマー監視無しを選ぶとブルースクリーンエラー-DPC_WATCHDOG_VIOLATION
問題の起きる機器のドライバを10以降用に更新すると通常は解決します。
それが出来ない時に利用ください。

障害時にPCを自動再起動する 適用

(C) 2013 電機本舗

3.5. プライバシー、セキュリティアシスト機能

Windows10 になり、クラウドによる情報共有機能が強化されました。
問題は工場出荷状態で全機能が ON ということです。
この機能は個人情報、社内情報の漏洩のリスクがあります。
最初は全て OFF とし、必要に応じて ON にするべきです。
本ソフトは主要な設定をワンタッチでできるようアシストします。



WiFi の使用できる時 Windows10 には次のレジストリ情報があります。

レジストリーキー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\wcmSvc\wifinetworkmanager\features

項目: WiFiSenseOpen

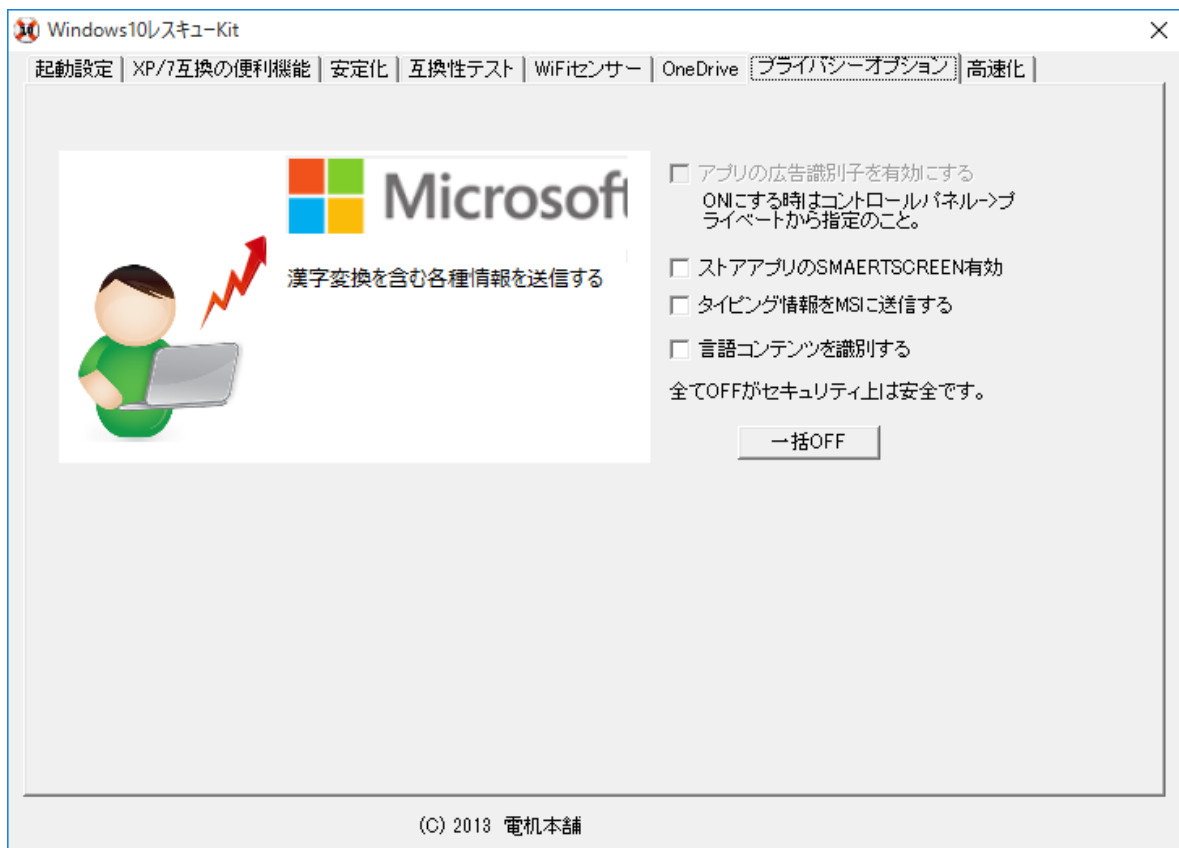
項目: WiFiSenseCredShared

この2つの項目にゼロを[OFF]を選んだ時、この2つの項目にゼロを書き込みます。

OneDrive は最初は無効にしましょう。



プライバシー設定も最初は無効推奨です。



FAQ.

Q1. アンインストールの仕方

--> Windows の標準のアンインストール手順「プログラムの機能」より実施してください。

Q2. PC が起動しなくなった。前回正常起動時の構成にしたい。

--> 「前回正常起動時の構成」の復活設定している時に可能です。
コンソール画面より、regrcv コマンドを実行してください。

64ビットOSの時は“C:¥regrcv64”と入力ください。

```
X:¥Windows¥System32> C:¥regrcv64 Enter
```

32ビットOSの時は“C:¥regrcv”と入力ください。

```
X:¥Windows¥System32> C:¥regrcv Enter
```

1) F8 レガシー形式の場合

F8 → F10 → 回復環境の起動 → トラブルシューティング → 詳細オプション → コマンドプロンプト → ログオン → コンソール画面を選んでください。

2) モダン形式の場合

この場合、PC が起動しなくなると回復環境を直接起動します。

回復環境の起動 → トラブルシューティング → 詳細オプション → コマンドプロンプト → ログオン → コンソール画面を選んでください。

Q3. DPC_WATCHDOG_VIOLATION エラー 0X133 が出て困っている。

本ソフトで Windows7 互換にした結果、メッセージが出なくなったが、固まるようになった。

--> PC に接続している装置が何時までも応答が 30 秒以上遅いとこの症状が出ます。

この時は PC の構成をチェックしてください。推奨する検査を示します。

- 1) 最初に必ず信頼性優先設定を指定し PC を再起動してください。
- 2) スリープ設定を全て OFF にしてください。
- 3) 使用しているセキュリティソフトを暫定期に使用を停止してください。
セキュリティソフトはウイルススキャンに時間を掛けすぎるとその時点で DPC_WATCHDOG_VIOLATION エラーを起こします。
※この場合は、使用するセキュリティソフトが Windows8/10 に対応していないと予想します。
- 4) チェックディスクを掛け、ディスク装置のメンテナンスをする。軽症の場合、この時点で解決します。
※ディスク装置が痛んでいるとこの症状が出る可能性が高いです。
- 5) マウス/キーボード以外の USB 機器、拡張スロットに接続している機器を全て外してください。
機器を一つづつ接続して PC をしばらく使用してください。特定の機器を接続した時に再発するはずですが、その機器の最新ソフトを導入し重点的に検査してください。

多くの場合は 1)~4) で解決します。ここまではソフトウェアの問題である可能性が高いです。

5) の場合はハードウェアの障害も含め対応を考えてください。

開発元

本ソフトの OEM、カスタマイズなどを希望する方は下記にご連絡ください。

有限会社電機本舗

<http://www.dnki.co.jp/>

tec@dnki.co.jp

東京都港区高輪1-2-16-フラットウェル高輪6A